シート10　　第　　学年　　組　　番　名前

※　解答は、《解答らん》に書きましょう。

中川さんたちは、次の物語を読んで、感想を述べ合う学習に取り組みました。

【物語】　※ 場面ごとに、１～５の番号を示しています。

１

私は、父を、いや、父の仕事を好きになれなかった。

父は、小さな時計店を営んでいた。売っている時計はわずかだったが、客は、次から次へとやって来た。

「祖父の古い机に眠っていた時計です。」

「ちょっと、見てくれんかな。古道具屋で見つけたんだけど……。」

「大切な時計だから、あんたに任せるよ。」

そう、私の家は、私が生まれるずっと前から修理中心の時計店だった。

父が預かる時計には、機械式と電池式があった。電池式は、機械式より正確で、値段が安い。ぜんまいを組み合わせて作る機械式は、手間がかかるため、値段が高い。それでも、手づくりの味わいがあるからか、機械式を好む人は多くいた。

機械式時計をよい状態で長く使うためには、定期的な手入れが欠かせない。車でいうメンテナンスのことを、時計では、オーバーホールといった。オーバーホールは、いわば時計の大掃除である。部品を分解して洗い、油をさして、組み直す。

２

私は、小学生のころ、一度だけ、父の仕事ぶりを見た。作業部屋に近づかないよう、母からきつく言われていたのだが、そこで父がしていることに、とても興味があった。

その日は、なぜか部屋の入り口が開いていた。

遠目から父の背中が見えた。私の好奇心に火がついた。

小さな部屋に、そっと足をふみ入れ、背を丸くした、父の後ろ姿を間近で見た。

――ナニモノモ、ヨセツケナイ。（何者も、寄せつけない。）

父の背中から発せられる声なき声が私の熱を一瞬にして消し去った。そればころか、私は、こわくなって部屋を出た。

３

幼いころの私が、父の仕事を好かなかった理由は単純だった。父が、私と遊んでくれなかったからである。

「次の日曜日、どこに行こうか。」

友達の家では語られていただろう言葉を、わが家で聞くことはなかった。

私は、仕事に明け暮れる父をいやがっていたが、仕事をしていないときの父は、きらいではなかった。口数が少なく、ぶっきらぼうな父だったが、母が父を悪く言うことは

なかったし、近所の人からも、父の悪口は聞いたことがなかった。だれからも、悪く言われない父を、私は、いい人なんだと思いこんでいた。

4

中学三年の夏休み、父が突然倒れた。

昼食前、作業部屋から、ドスンという鈍い音が聞こえた。私は、あわててかけつけた。

作業台の下には、※ペッドルーペをかけたまま、うめき声を上げる父がいた。

父は、すぐに病院に運ばれた。急性の腸炎だった。幸い大事には至らず、二日後には退院した。

父が入院した日の夜、私は、母から作業台の片づけを言い渡された。台の上にも、下にも、部品が散乱していた。床に転がった部品を拾おうとしたとき、足下に父のルーペがあることに気づいた。私は、生まれて初めてペッドルーペをかけ、あわつぶのような歯車を手のひらにのせた。肉眼では見られない、歯車の本当の姿が現れた。

私は、身震いした。それは、想像を絶する美しさだった。

私は、大小さまざまな部品を、次々に手にし、すみずみまでながめた。

最後に、台にあった、丸い裏ぶたを手に取った。ルーペ越しに、サインが見えた。

〈1980 Sei〉

ふたの縁に沿って、小さいながらも、ていねいな字が刻まれている。

さらに、その横には、

〈1988 Aki〉〈1990 Aki〉〈2003 Al〉

とあった。

「一九八〇　セイ」「一九八八　アキ」……サインの意味を、私はすぐに理解した。

私の祖父は、セイジロウ、父は、アキヒロといった。

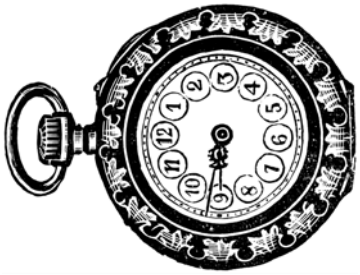
最後の「l」は、「k」を彫っている途中ということだった。

私は、退院した父に、サインのことを告げた。父は、しばらくだまっていたが、

「直した者がサインを刻む。そうすると、次に直す者がふたを開けたとき、だれがどんな仕事をしたかが分かる。一つ、一つ、だれに見られても恥ずかしくない仕事をしているという時計職人の誇りを示すサインだ。」

と、病み上がりとは思えないほど、強い口調で語った。父から仕事の話を聞いたのは、これが初めてだった。小学生のころに見た、父の背中が思い出された。

5



あれから十年が過ぎた。

私は今日、ついに、時計の裏ぶたに、

〈2013 Yoji〉

と刻んだ。

私は、名をヨウジという。

※ペッドルーペ…頭にかけて使う、細かいものを大きくして見るためのレンズ（拡大鏡）。

【三ページ】

次は、中川さんたちが、この物語について語った感想です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【感想】

〈中川〉
この物語は、（　①　）の視点で書かれています。父との関係の中で移り変わる、父の仕事に対する（　①　）の気持ちがよく分かります。

〈田中〉
私が、子ども時代を思い出す形で始まります。過去の場面がほとんどですが、わずかしかない（　②　）の場面に、大きな意味があると思います。

〈川口〉
ぼくも、同感です。最後の〈2013 Yoji〉のサインは、（　　③　　）ことを表していると思います。

〈青木〉
ぼくは、機械式時計に興味をもちました。ぼくも、（　　④　　）を、ルーペで拡大して見てみたいと思いました。

一　（　①　）に当てはまる言葉として最もふさわしいものを、【物語】の文中からぬき出して、**漢字一字**で書きましょう。

二　（　②　）に当てはまる言葉として最もふさわしいものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

ア　未来　　**イ**　現在　　**ウ**　時代　　**エ**　記憶

三　（　③　）に当てはまる言葉を、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

○　「**私**」「**父**」「**祖父**」の三つの言葉をすべて使って書くこと。

○　**二十字以上、二十五字以内**にまとめて書くこと。

四　（　④　）には、【物語】の場面４の文中にある、比喩（たとえ）が使われている言葉が入ります。その言葉を、**十字**でぬき出して書きましょう。

【四ページ】

シート10　健康ふく

第　　学年　　組　　番　名前

一

二

三

20

四

シート10　正答例

一　私

二　イ

三　（例１）

父や祖父と同じように、私が時計職人になった（こと）　（21字）

（例２）

父や祖父がしていた仕事を私もしているという（こと）　（21字）

四　あわつぶのような歯車